



北区を代表する景観

10 選

北区景観百選の中でも特に多くの人々から支持され、最も北区らしいと思われるものを厳選したのが、この10選です。古くから愛される歴史的名所や多くの人々が集う区民の憩いの場、区外の人々にも知られたにぎわいの場など——まさに北区を代表する景観を集めた10選といえるでしょう。

飛鳥山公園

江戸時代から庶民に愛された桜の名所 31 1-7



桜の名所として有名な飛鳥山公園ですが、そもそもここを名所に仕立て上げたのは、徳川八代將軍吉宗です。享保5～6年(1720～21)に、1,270本もの苗木を植えたという記録が残っています。

当時、桜の名所といえば上野で、そこでは武家を中心とする花見が行われました。それに対して、飛鳥山は庶民に開放され、仮装した人たちによるどんちゃん騒ぎや夜桜見物など、にぎやかな花見が行われました。

明治6年には、我が国最初の都市公園に指定されています。桜の他にもアジサイやツツジなど緑あふれる公園内には、都指定の旧跡「飛鳥山の碑」などその歴史を留めるものや、平成10年にオープンした北区飛鳥山博物館・渋沢史料館・紙の博物館の「飛鳥山3つの博物館」など、たくさんの見所があり、多くの人に親しまれています。

アクセス

JR王子駅南口より徒歩1分、東京メトロ南北線王子駅より徒歩3分、都電荒川線飛鳥山停留場より徒歩1分

所 北区王子1-1-3

問 北区役所道路公園課 TEL.03(3908)9275



区民の声

「場所をとるのがたいへんですが、夜桜がきれいなので、毎年花見に来ています。また、王子駅のホームや音無橋の方から見える飛鳥山もきれいで、仕事の疲れもとれます」
(会社員・浮間2丁目在住・28歳男性)

「とても広い公園で、都電やお城のある広場、噴水など、子ども向けの遊び場が盛りたくさんなので、毎日小さな子どもを連れて遊びに来ています」
(滝野川3丁目在住・30代女性)

王子神社

木々が織りなす歴史の調べ 36 I-7



王子神社は、元亨2年(1322)この地の領主であった豊島氏が、紀州熊野三社より勧請したことにはじまる神社です。

毎年8月上旬の日曜日に行われる例大祭は、神社に古くから伝わるお守りの形にちなんで「檜祭」と呼ばれ、あわせて、北区の無形民俗文化財に指定されている王子田楽が奉納されます。

大きな鳥居、銅葺きの緑青が見事な屋根と正面の白い柱が趣を放つ社殿、そして境内のうっそうとした木々とが、荘厳な落ち着いた景観をつくりあげています。特に、音無川方面から一際目立って見える大イチョウは、都の天然記念物に指定されている立派なものです。

また、この王子神社には、「髪之祖神」として知られ、百人一首で有名な蟬丸を祭った「鬨神社」があり、全国のかつらや理容関係に携わる人々の崇敬を集めています。

アクセス

JR王子駅北口・東京メトロ南北線王子駅より徒歩1分

所 北区王子本町1-1-12

問 王子神社 TEL.03(3907)7808



区民の声

「秋に紅葉するイチョウや冬に咲くたくさんさんのツバキの花が、とてもきれいです。大木に囲まれた境内は、昼間でも静かなところですよ」

(岸町2丁目在住・60歳女性)

「七五三のお参りや、受験の時の合格祈願をした思い出深い神社です。旅行から帰ってきたときなど、正面の大きな鳥居を見るとほっとします」

(会社員：王子本町1丁目在住・30代男性)

音無橋と親水公園

ロマンあふれる橋から望む
江戸風情漂う憩いの川辺

69 1-7



3つのアーチ型の橋脚と、優雅な曲線美を誇る欄干が印象的な音無橋は、昭和5年の架橋以来この地域の交通の要として、また、王子というまちのランドマークとして、多くの区民に親しまれてきました。

この橋から王子駅方向に視線を転じると、純和風の木橋「舟串橋」をはじめ、水車、東屋、行灯などを配した音無親水公園が見えます。江戸風情を感じさせるその景観は、訪れる人の心を和ませるとともに、不思議な世界へと誘ってくれます。

昭和63年に完成したこの公園は、平成元年に「日本の都市公園100選」に選ばれ、同2年には「手づくり郷土賞」にも選ばれています。春には満開の桜を求めて集まる花見客で、また、夏には水遊びの子どもたちや涼を求めて集まる人々でたいへんなぎわいをみせます。

アクセス

JR王子駅北口よりすぐ

所 北区王子1-1-1先

図 北区役所道路公園課 TEL.03(3908)9275



区民の声

「駅からすぐ近くなのに、まるで違う空間・時代にいるような錯覚のする公園です。また、夜はライトアップされた音無橋がとても素敵です」
(専門学校生：北区在学・19歳女性)

「毎日通勤で通っていますが、この場所が大好きなので、それだけで他の場所には引越せません。また、音無橋の上から見た親水公園の眺めも大好きです」
(会社員：滝野川2丁目在住・50代男性)

名主の滝公園

その名の通り名主がつくった清涼な滝 75 H-6



名主の滝公園は、滝を中心につくられた自然の感じがあふれる公園です。名主の滝は、江戸時代の後半、王子村の名主であった畑野家が、敷地内の湧き水を利用して築いた滝で、入口には武家造り風の薬医門やくいもんもあり、その当時をしのばせます。

落差8mという迫力いっぱいの「男滝おたき」をはじめ、「女滝めたき」、「独鈷どっこの滝」、「湧玉ゆうぎよくの滝」と4つの滝があり、周辺に清々しい水音を響かせています。そのほかにも溪流や池が設けられ、盛夏の避暑には打ってつけともいえる涼しげな景観をつくりあげています。

また、園内はうっそうと繁る木々の緑に覆われ、野鳥のさえずりがしみわたる深山を思わせる都会のオアシスになっています。毎年4月には桜が咲き、11月頃にはヤマモミジが見事な紅葉を見せるなど、一年を通じて多くの人たちに親しまれている公園です。

アクセス

JR王子駅北口・東京メトロ南北線王子駅より徒歩10分

所 北区岸町1-15-25

園 北区役所道路公園課 TEL.03(3908)9275

入 午前9時～午後5時（7月15日～9月15日は～午後6時）

※入場は閉門の30分前までです。



区民の声

「夏になると、子どもを連れてよく水遊びに来ます。滝の水の流れがとても気持ちよく、つい時間がたつのを忘れてしまいます」

（主婦・中十条1丁目在住・30代）

「静かな森に包まれた別世界のようなところで、独り占めしたい気持ちになります。自転車で来られる距離にこんな場所があるなんて、とても幸せだと思います」

（会社員・王子2丁目在住・40代男性）

北とぴあ

これが北区の空に輝く北斗七星 **2** I-7



王子駅前であって、一際高く銀色に輝いている建物が北とぴあです。高さ88.5mを誇るそのスケールと洗練されたデザインは、人々の目を引きつけます。北都とユートピアを掛け合わせてつけられた名前には、北のシンボル北斗七星のイメージが込められています。

館内にはプラネタリウムや、本格的なコンサートホール、誰もが低料金で利用することのできる会議室、音楽スタジオなどがあり、17階の展望ロビーでは、遠く赤城や榛名の山々が見渡せます。

パイプオルガンの定期演奏会が行われるなど、誰もが気軽に立ち寄り楽しむことができる場所になっています。



区民の声

「17階の展望ロビーから見える夜景が素晴らしいですね。また、プラネタリウムがあるドーム型の屋根が、きらきら陽射しに輝くようすがきれいだと思います」
(会社員・赤羽北1丁目在住・28歳女性)

「ダンスが楽しめる13階の飛鳥ホールとお茶会や句会ができる和室は、いつも利用しています。駅からも近く、とても便利なところです」
(豊島4丁目在住・60代女性)

アクセス

JR王子駅北口より徒歩2分、東京メトロ南北線王子駅よりすぐ

所 北区王子1-11-1

問 北とぴあ TEL.03(5390)1100

入 午前9時～午後10時（年末年始は閉館）

赤羽桜並木通り

桜のトンネルが作りだす夢空間 55 D-3



北区にはたくさんの桜並木があり、その多くが景観百選に選ばれていますが、その中でも赤羽桜並木通りは、とりわけ多くの支持を集めました。


八幡小学校前から諏訪神社前の交差点まで、約700mにわたって110本余りの桜が並んでいて、どれも枝ぶりのよいものばかりです。開花時には、幅20mの道路をすっぽり覆う見事な桜のトンネルが完成します。

桜が満開の季節には、大勢の人がカメラを手に桜見物に訪れます。また、沿道に提灯ちようちんがつるさされるので、夜桜を楽しむこともできます。

この桜並木は、春ばかりでなく、夏の青葉や秋の紅葉など、辺りにうるおいを与えてくれる貴重な樹木として、地域の人たちに大切にされています。

アクセス

JR赤羽駅西口より徒歩8分、JR北赤羽駅赤羽口より徒歩7分

 北区赤羽台3丁目、4丁目、桐ヶ丘2丁目、赤羽北3丁目辺り



区民の声

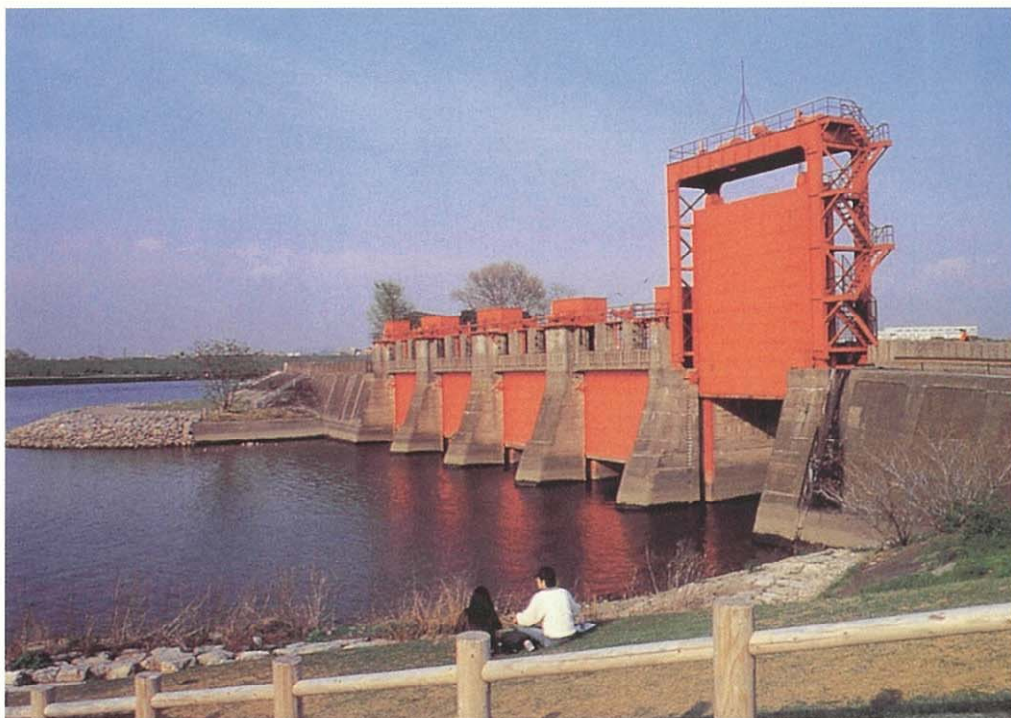
「花の時期には、ここに住んで本当によかったと思います。赤羽緑道公園に架かる橋の上からは、花が目の前に咲き誇る素晴らしい眺めが望めます」
(赤羽台4丁目在住・23歳男性)

「春の桜はもちろんのこと、秋の紅葉の色づきもきれいです。この桜は散り始めが最もお勤めで、雪が降るように花びらが落ちてきます」
(学生・赤羽北2丁目在住・20歳女性)

岩淵赤水門と荒川

区民の暮らしを洪水から
守り続けてきた名物水門

89 G-1



その門扉が真っ赤に塗られていることから「赤水門」の名で親しまれている岩淵赤水門は、そもそも日本人でただ一人、パナマ運河の建設に携わった青山士^{あきら}により、大正13年に建設されたものです。以来、昭和57年に新水門が完成するまでの長きにわたって、東京の低地部を洪水から守ってきました。

赤水門周辺は、大きな荒川の流れと豊かな緑が、さわやかさと開放感にあふれた景観をつくりあげています。もともと散歩や釣りなど、たくさんの人々が訪れる場所でしたが、最近では野外イベント広場「ムーンライトスタンド」や荒川知水資料館 amōa^{アモア}などの施設もでき、水辺に親しめる空間として整備がすすめられています。

赤水門から上流に続く広い河川敷は、散策やスポーツが気持ちよく楽しめる憩いの空間となっています。また、荒川の川辺は、自然の生態系が残る貴重な場所です。

アクセス (岩淵赤水門)

東京メトロ南北線赤羽岩淵駅・志茂駅より徒歩15分、
JR赤羽駅東口より徒歩20分

所 北区志茂5丁目先



松本要三郎氏撮影

区民の声

「赤水門の辺りはとても気持ちのよい景色が広がっているので、知らない人同士でも自然に挨拶を交わします。また、水門端にある“中の島”が、可愛らしくて好きです」
(岩淵町在住・42歳女性)

「毎朝、浮間公園裏から東北線の土手の辺りまでを散歩します。川面を渡ってくる新鮮な空気をいっぱい吸い込み、朝焼けを見るのは最高の喜びです」
(浮間3丁目在住・56歳男性)

都立浮間公園

満開の桜に心洗われる池のほとり 80 A-2



浮間舟渡駅を降りると目の前に見える都立浮間公園は、約4万㎡の広さを誇る浮間ヶ池を中心につくられた公園です。浮間ヶ池は、もともとは荒川の流れでしたが、昭和初期にその蛇行した流れを変える大改修工事の際、水が残ってできたもので、園内はこの大きな池がその周りの豊かな緑とあいまって、広々としてのどかな景観をつくりあげています。

春には桜、ツツジ、梅雨時にはアジサイなどが美しく咲き、秋には威風堂々と立ち並ぶケヤキの葉が美しく紅葉します。また、初冬からは8,000羽に及ぶカモなどの渡り鳥が集まるなど、季節ごとの変化が楽しめます。

池でヘラブナやコイなどの釣りを楽しむ人、池の外周をジョギングや散歩をする人、お弁当を持ったピクニックの家族連れなど、多くの人を訪れる場所です。

アクセス

JR埼京線浮間舟渡駅より徒歩1分

所 北区浮間2-31・32

問 浮間公園管理事務所 TEL.03(3969)9168



区民の声

「一年を通して花や木が楽しめる場所ですが、中でも、春に桜の花が池を一周するかのようには咲き誇る景色は壮観です」
(浮間4丁目在住・50代女性)

「家から近く、一年中無料で釣りを楽しめるいいところです。都会なのに自然も多く残っている感じがして、とても気持ちがいいです」
(浮間2丁目在住・67歳男性)

旧古河庭園

バラに彩られた都会の中の癒しの庭  K-8




総面積約3万㎡を誇る旧古河庭園は、武蔵野台地の傾斜地を巧みに利用した、大正初期を代表する庭園です。もともとは明治の元勲、陸奥宗光の宅地であったところを、銅山の成功で財をなした古河家が所有したことから、その名がつけました。


旧帝国博物館や鹿鳴館を設計した英国人ジョサイア・コンドル博士によって設計されたルネサンス風の洋館、四季折々の花が咲き乱れる洋風庭園、心字池をいかした和風回遊式庭園など、和洋のエッセンスが絶妙に調和した見事な庭園は、大正初期の原型をとどめる貴重な存在で、東京都文化財と国の名勝に指定されています。

4月中旬～5月上旬のつつじ、5月中旬～6月下旬及び10月中旬～11月下旬のバラ、11月下旬～12月上旬の紅葉は特に見応えがあり、遠方からも多くの人々が訪れます。騒がしい都会の中であって、緑豊かなこの庭園は、疲れた心をしばし癒すには絶好の場所といえるでしょう。


アクセス

JR上中里駅より徒歩7分、JR駒込駅北口より徒歩12分、東京メトロ南北線西ヶ原駅より徒歩7分

 北区西ヶ原1-27-39

 旧古河庭園管理事務所 TEL.03(3910)0394

※洋館の見学については予約と別途見学料が必要です。くわしくは財団法人大谷美術館 TEL.03(3910)8440まで

 午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで。年末年始は休園）
入園料150円（65歳以上は70円）



区民の声

「何年前に、雪の降った翌日、ここを訪れました。園内に入った途端、真っ白な雪で覆われた庭園が目には焼きついて、今でも忘れられません」

（西ヶ原4丁目在住・40代女性）

「『近所にこんな素敵な場所があっていいですね』とよく友人たちにいわれます。庭園のバラは、合わせて80種、200株もあって、とてもきれいです」

（中里1丁目在住・50代女性）

まちを走る都電

ほのほの懐かしい
昔ながらのチンチン電車



都電荒川線は、発車時のベルの音から「チンチン電車」の愛称で親しまれています。この荒川線の歴史は、「王電」と呼ばれた王子電気軌道車が、明治44年、大塚駅前～飛鳥山間にわたり運行を開始したことに始まります。

都電は東京中に路線が敷かれましたが、現在ではこの荒川線だけを残すのみとなっています。

三ノ輪橋～早稲田間12.2kmを53分かけて走りますが、平均速度13km、最高速度でも40kmとのんびりしたもので、都会の中にあって昔ながらのほのほのとした感じを与えています。

区内では「梶原・栄町・王子駅前・飛鳥山・滝野川一丁目・西ヶ原四丁目」の計6カ所に止まります。停留場近くの商店では、都電にちなんだ和菓子・地ビール・日本酒・お茶などの商品も売られています。都電は、一日平均5万人を越える人々の貴重な足として、今なお活躍しています。



区民の声

「前の電車がつかえていたり、大きな交差点では信号待ちをしたりしながら、のんびり走っていく都電は、可愛らしい感じがしてたまらなく好きです」

(高校生・北区在学・女子)

「都電が、飛鳥大坂を車と並んで走り、王子駅のガードをくぐっていくようすは、北区を代表する景観だと思います」

(王子2丁目在住・47歳男性)

所 北区堀船3-31～西ヶ原4-65

問 東京都交通局荒川電車営業所 TEL.03(3893)7451

入 1回の乗車につき160円